

## 神戸アーカイブ写真館

神戸市長田区二葉町にある旧二葉小学校、現在の「ふたば学舎」は外観だけでなく、建物内部も昔のおもむきと風情を感じさせる。

長い廊下の左右には、小学校時代の教室が会議室などに幅広く活用されている。廊下を歩いていると、なんだか遠い昔を思い出す。階段を3階に上がると、「神戸アーカイブ写真館」がある。教室を改築した感じがよく分かる。

案内リーフレットから一神戸市では、広報課や文書館などで保存している記録用写真フィルムのデジタル化を行ってきました。区役所や神戸市内小中学校及び地域の方々に協力・提供していただいた写真も集約し、市民の皆様無料で閲覧していただける「神戸アーカイブ写真館」を開設しました。

管内では、神戸港開港から阪神・淡路大震災までを中心に約24万点の写真を、時代別・テーマ別などにわかりやすく整理・分類し、パソコン・パネル・冊子などで気軽に閲覧していただくことができます。昔懐かしい写真を見て楽しむだけでなく、市民のみなさまの交流や学びの場としてもご活用ください。

写真館代表の東充さんに話をお聞きできた。震災後、長田はじめ地域と復興まちづくりの写真をデジタル化してきた。最近是小中学校の統廃合が進み、学校関係の写真にも力を入れている。棚には学校ごとに写真が保存・整理してある。

東さんは震災復旧に携わり、「その後、神戸長田コンベンション協議会をつくり、震災学習で全国から訪れる学校の受け入れ統括や、被災で焼失したまちの写真を再収集し、整理・デジタル化する業務を行いました。それが神戸アーカイブ写真館の設立に繋がったのです。これからも貴重な写真の収集を続け、震災で失った小中学校のアルバムにも気軽に会えて語り合える、そんな場にしたいですね。写真には写真の力があるので、外部に出て「語り部講座」のようなことを実施するのも大きな役割だと思っています。」(写真館『阪神・淡路大震災からの復興、そして飛躍』より)

レトロ写真が検索・閲覧できるパソコン向こうの窓から、高層住宅などが見える。東さんによれば、震災時には、あの建物近くまで燃え尽くされたという。こうした写真の力による震災復興、歴史と文化のまちづくりに注目して、写真館をあとにした。



(2018年8月9日)